

平成 30 年度 研修会開催報告

「在宅生活における生活行為向上に必要な考え方」

日時：平成 31 年 3 月 13 日(水)13：30～15：00

場所：京都中部総合医療センター 第 2 病棟 5 階講堂

講師：京都中部総合医療センター 理学療法士 高位 篤史, 梶田 宏司

先日、南丹地域リハビリテーション支援センター主催で研修会が行われました。今回の研修会では当院の訪問リハビリの事例紹介も交え、対象者の主体性を引き出すために必要な ICF の「活動・参加」の意義や目標設定について講義を行いました。今後ますます自立支援の考え方が医療・介護現場でも重要視されてくると思われまます。今後も当支援センターは地域で従事される皆様のニーズに答えられるような研修会を企画していきたいと考えております。こんな事が知りたい、学びたい等のご意見・ご要望がもしございましたら、お気軽に南丹地域リハビリテーション支援センターまでご連絡下さい。

【研修会後のアンケート一部抜粋】

- ・改めて具体的な生活目標を患者さんと一緒に考えることは大切だと感じた
- ・リハビリというと実施の部分をつえがちですが参加することも大切だと分かりました
- ・目標を具体化すること、関係性を密にというのが本当にそうだなと改めて思いました
- ・介護職としての視点でなく今後家族に置き換えても必要な支援のあり方を学習できた

※他にも多数前向きなご意見頂きました。皆様、お忙しい中ご参加頂き、ありがとうございました。



32 名の参加者がありました。